

GMO フィナンシャルHD

2019年12月期第2四半期

決算説明会

STOCK CODE:7177

代表執行役社長
常務執行役

グループCEO
グループCFO

鬼頭 弘泰
山本 樹

2019年7月26日

■ 決算概要

事業概況

Appendix

マーケット環境

- 2市場個人株式等委託売買代金*は、前年同期比21%減の56兆円
- 業界全体の店頭FX取引高*は、同24%減の762兆円
- 仮想通貨は、ビットコインを中心にボラティリティが高水準で推移

第2四半期業績 トピックス

- 証券・FX事業はQ1比で大幅な増収・増益
Q2以降、仮想通貨の取引高が増加し、仮想通貨事業の収益も増大
- 店頭FXは、ビッグデータ解析等の改善施策の効果により、収益率が過去最高水準
- 仮想通貨事業は、ボラティリティ回復に伴い6月の取引高が過去最高

*日本取引所グループ、金融先物取引業協会公表資料より算出

第2四半期決算(1-6月) | サマリー(前年同期比)

	2018年12月期Q2 (2018年1-6月)	2019年12月期Q2 (2019年1-6月)	前年同期比	
			増減額	増減率
営業収益	173.5 億円	158.7 億円	△ 14.8 億円	△ 8.5 %
純営業収益	163.5 億円	148.1 億円	△ 15.3 億円	△ 9.4 %
営業利益	58.6 億円	42.8 億円	△ 15.7 億円	△ 26.9 %
経常利益	58.6 億円	41.8 億円	△ 16.7 億円	△ 28.6 %
最終利益	39.2 億円	25.0 億円	△ 14.2 億円	△ 36.2 %

第2四半期決算(1-6月) | セグメント別の状況(前年同期比)

()内は前年同期比

2018年1-6月

2019年1-6月

証券・FX事業

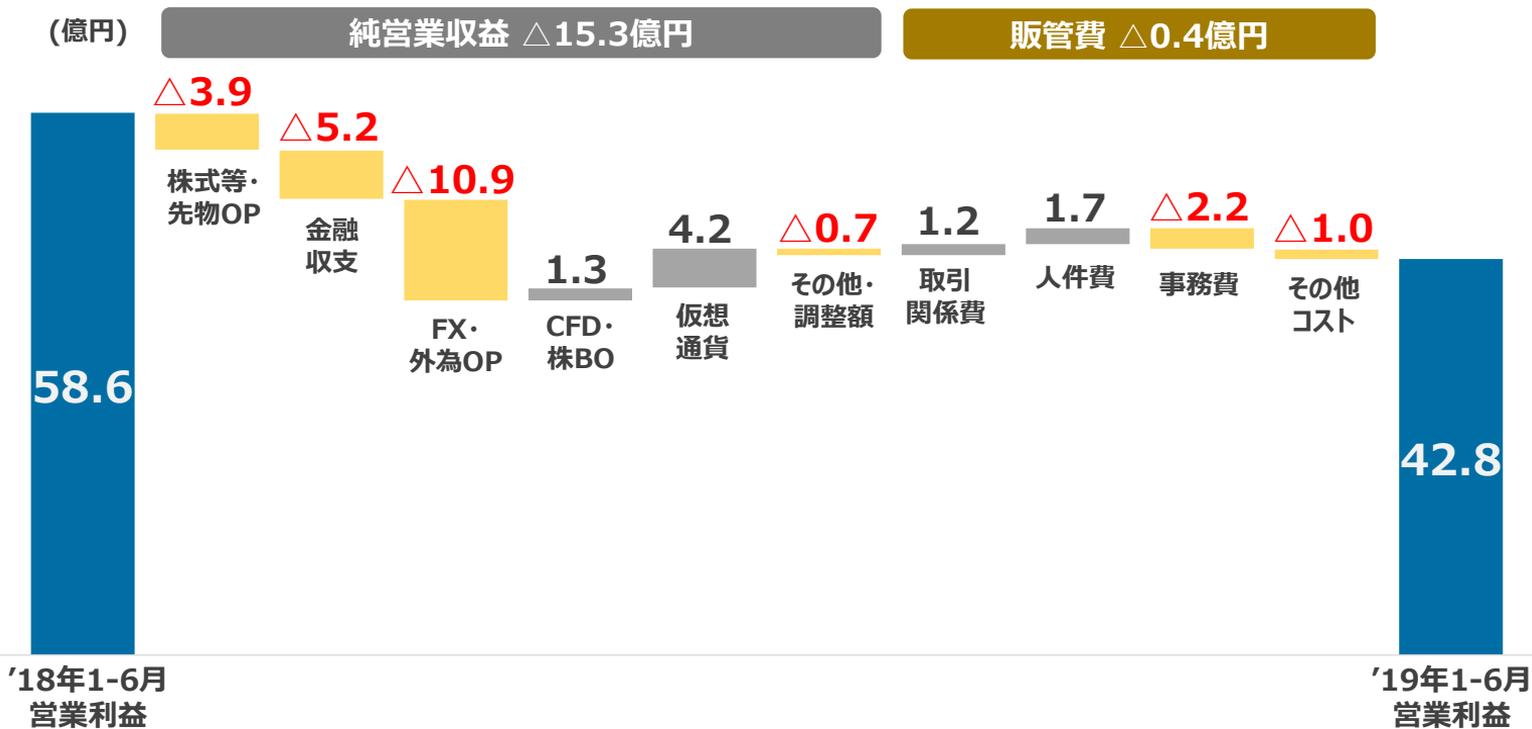
営業収益	153.3 億円	135.2 億円	(△11.8%)
営業利益	60.2 億円	38.4 億円	(△36.2%)

仮想通貨事業

営業収益	16.1 億円	20.4 億円	(26.5%)
営業利益	△2.5 億円	3.6 億円	(ー)

第2四半期決算(1-6月) | 営業利益増減(前年同期比)

- マーケット環境が良好であった前年同期比では減益となったものの、仮想通貨事業の利益が大きく伸び、証券・FX事業も復調の兆し



第2四半期決算(4-6月) | サマリー(前四半期比)

	2019年12月期Q1 (2019年1-3月)	2019年12月期Q2 (2019年4-6月)	前四半期比	
			増減額	増減率
営業収益	69.0 億円	89.6 億円	20.6 億円	29.8 %
純営業収益	64.1 億円	84.0 億円	19.8 億円	30.9 %
営業利益	13.4 億円	29.3 億円	15.8 億円	117.8 %
経常利益	13.1 億円	28.7 億円	15.6 億円	118.8 %
最終利益	6.1 億円	18.8 億円	12.7 億円	206.1 %

第2四半期決算(4-6月) | セグメント別の状況(前四半期比)

()内は前四半期比

2019年1-3月

2019年4-6月

証券・FX事業

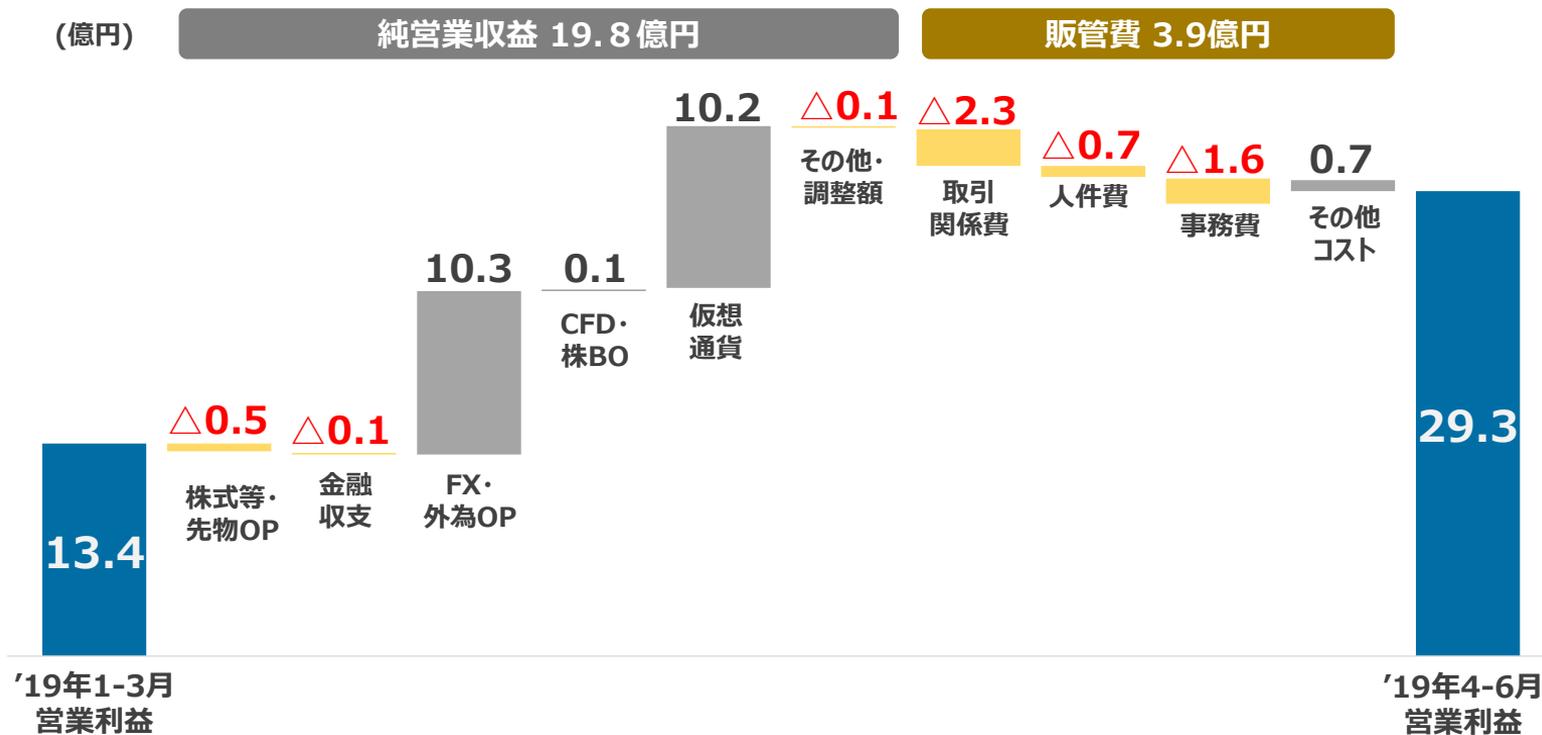
営業収益	62.3 億円	72.8 億円 (16.8%)
営業利益	14.9 億円	23.4 億円 (56.9%)

仮想通貨事業

営業収益	5.0 億円	15.3 億円 (201.8%)
営業利益	△ 1.8 億円	5.5 億円 (-)

第2四半期決算(4-6月) | 営業利益増減(前四半期比)

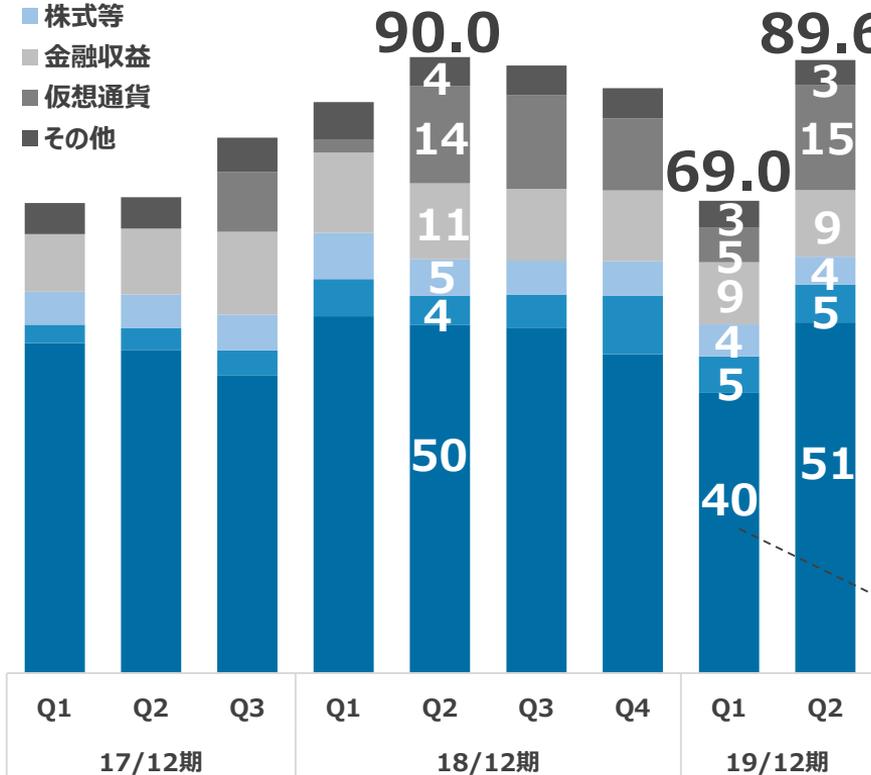
- 証券・FX事業、仮想通貨事業ともに大幅な増収・増益



四半期業績推移 | 営業収益(セグメント別/商品別)

(億円)

- FX・外為OP
- CFD・株BO
- 株式等
- 金融収益
- 仮想通貨
- その他



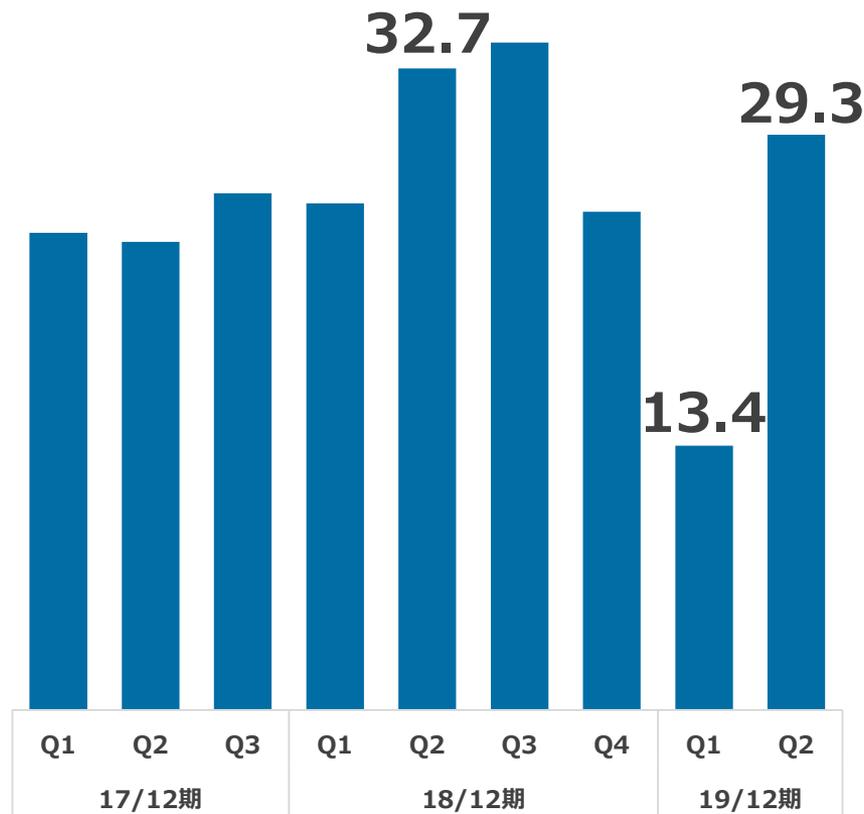
Q/Q
29.8%増収

仮想通貨およびFX・外為OPの
収益増加が増収に貢献

2019年1月の外国為替相場
急落による減収

四半期業績推移 | 営業利益

(億円)



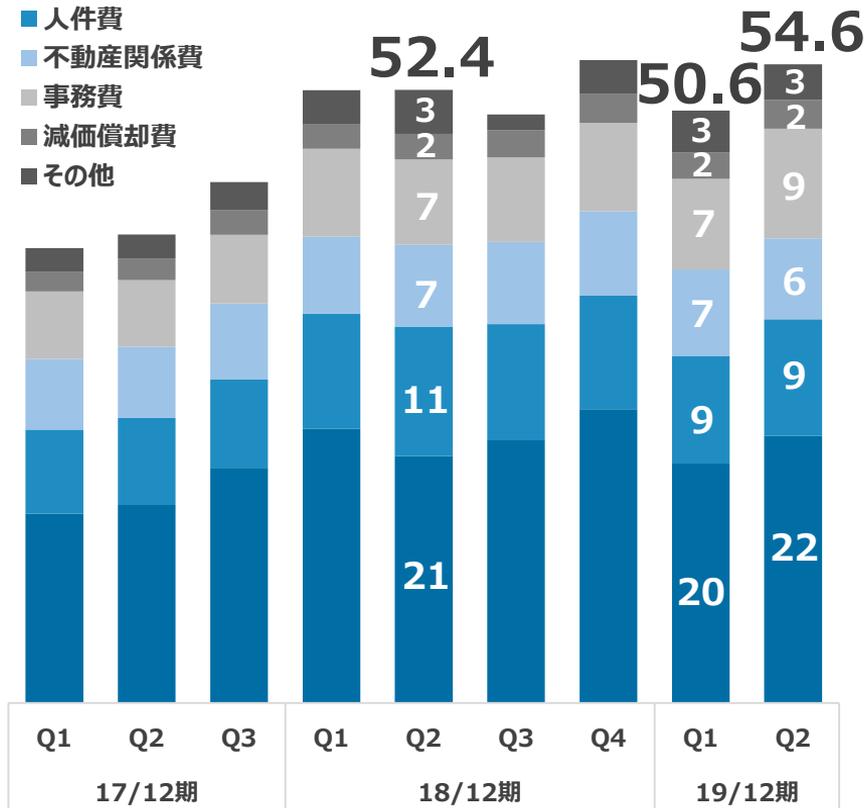
Q/Q
117.8%増益

営業収益の増加に伴い、
営業利益も大きく増加

四半期業績推移 | 販売費及び一般管理費

(億円)

- 取引関係費
- 人件費
- 不動産関係費
- 事務費
- 減価償却費
- その他



Q/Q
7.8%増

事務費 +1.6億円

広告宣伝費 +0.7億円

口座開設数が伸長し、
成果報酬型の広告費用が増加

今後の費用見通し 50億円強

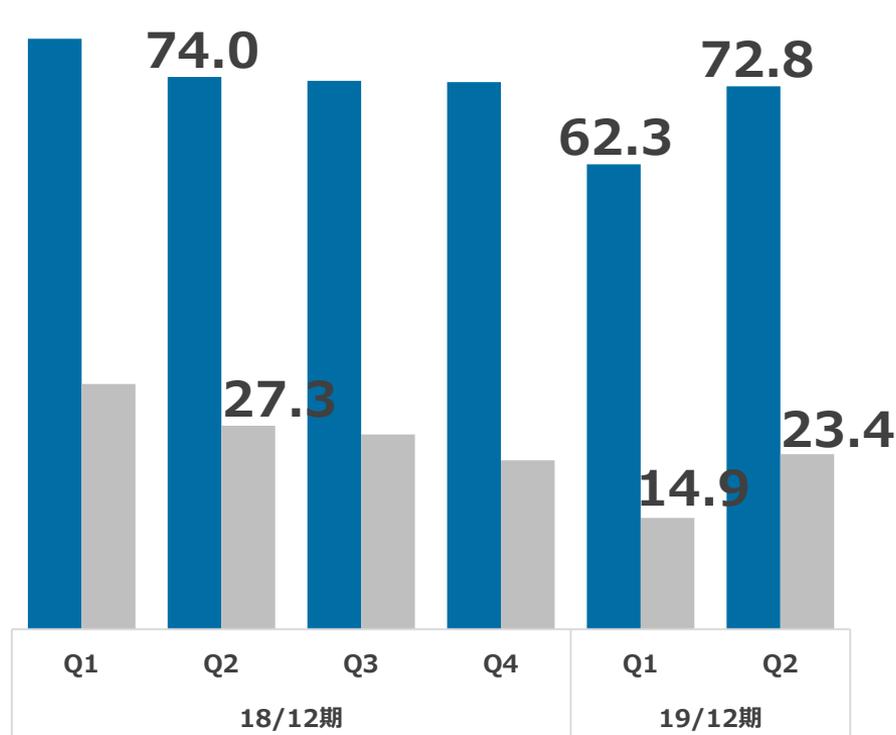
証券・FX事業：40億円強

仮想通貨事業：10億円弱

セグメント別四半期業績推移 | 証券・FX事業

(億円)

■ 営業収益
■ 営業利益



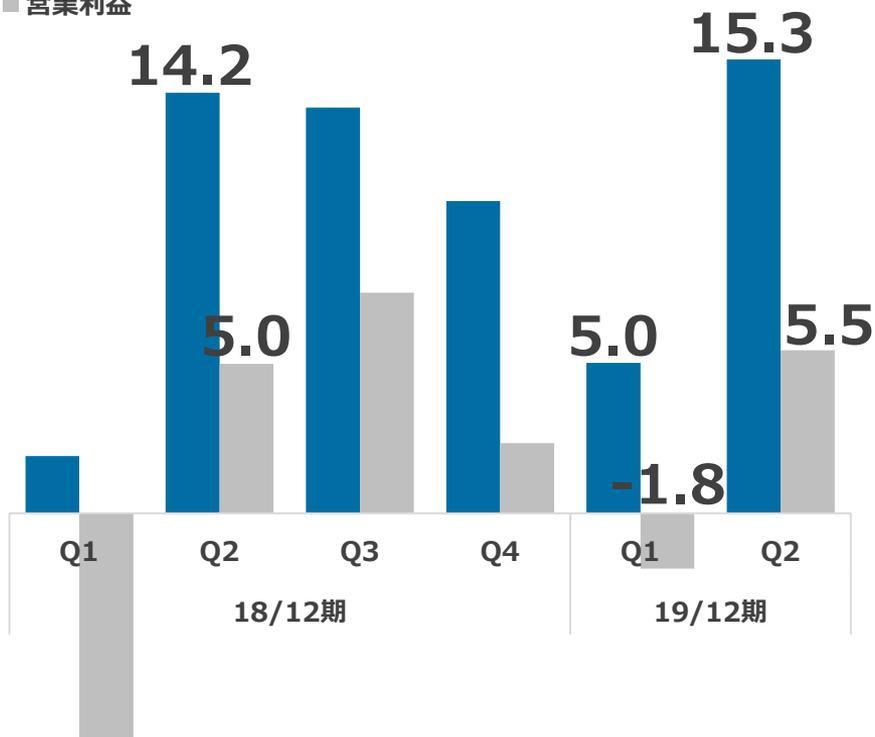
Q/Q
16.8%増収
56.9%増益

FX事業の取引高は低調も、
高い収益率を維持することで
収益増加に大きく貢献

セグメント別四半期業績推移 | 仮想通貨事業

(億円)

■ 営業収益
■ 営業利益



Q/Q
201.8%増収
5.5億円の利益を計上

4月に入りボラティリティが回復、
6月には売買代金が過去最高

決算概要

事業概況

Appendix

事業概況ハイライト | 第2四半期決算(4-6月)

FX

取引高
174兆円
前年同期**244**兆円

取引高シェア
22.5%
前年同期**24.0**%

預り証拠金残高
1,865億円
前年同月末**1,684**億円

株

売買代金
2.5兆円
前年同期**4.0**兆円

売買代金シェア
4.5%
前年同期**5.6**%

信用取引残高
816億円
前年同月末**1,167**億円

仮想通貨

売買代金
4.1兆円
前年同期**0.5**兆円

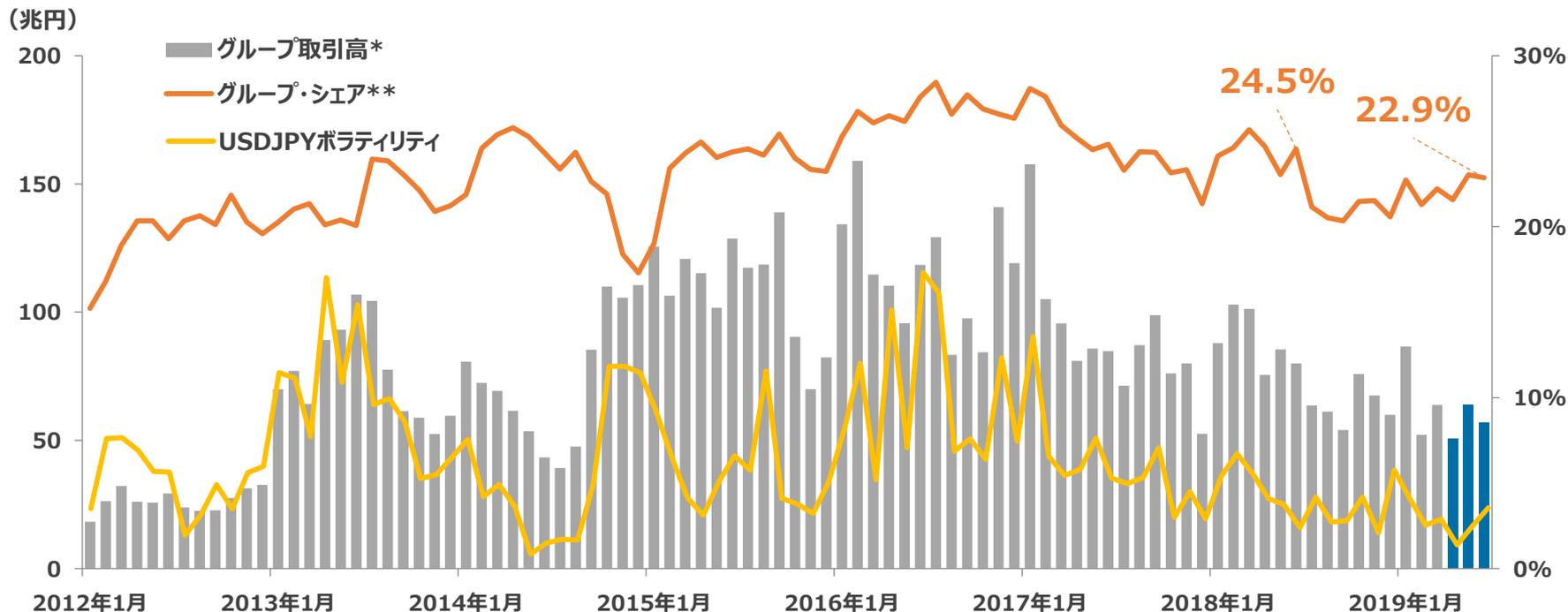
口座数
27.1万口座
前年同月末**16.9**万口座

預り資産残高
357億円
前年同月末**188**億円

FX取引高シェア、株式売買代金シェアは金融先物取引業協会、日本取引所グループ公表資料より当社作成
FX(店頭FX)のデータは、GMOクリック証券及びFXプライムbyGMOの合計値
株式売買代金シェアは、2市場の株式等個人委託売買代金(ETF・REIT含む)に占めるシェア

店頭FX | グループ取引高シェアの推移

- 外国為替相場のボラティリティ低下の影響を受け、取引高は低調に推移
- グループシェアは増加トレンド、3月末比で0.7%増加の22.9%

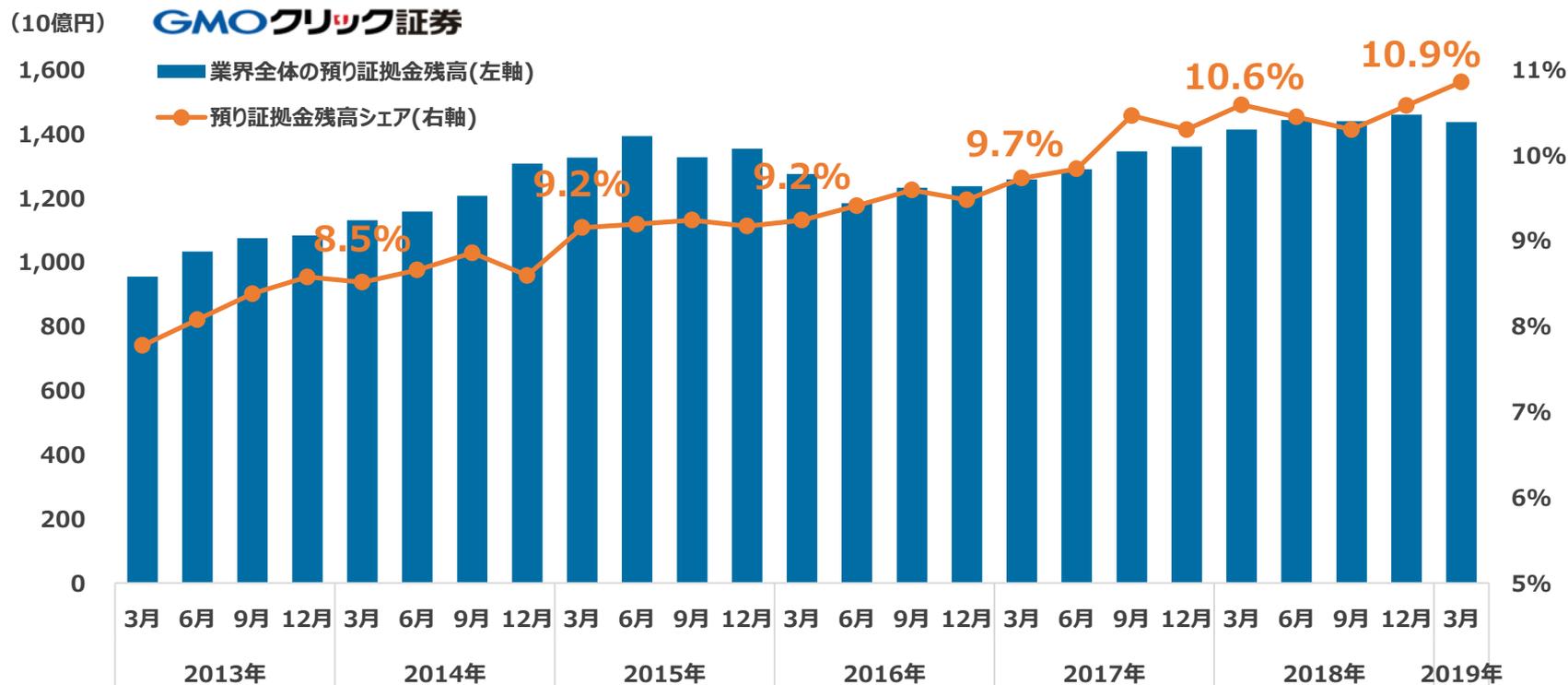


金融先物取引業協会「店頭FX月次速報」より当社作成

* 2015年2月以前の店頭FX取引高はGMOクリック証券単体数値。2015年3月以降は、GMOクリック証券とFXプライムbyGMOの合計値

** グループ・シェアは、金融先物取引業協会「店頭FX月次速報」を市場全体として算出

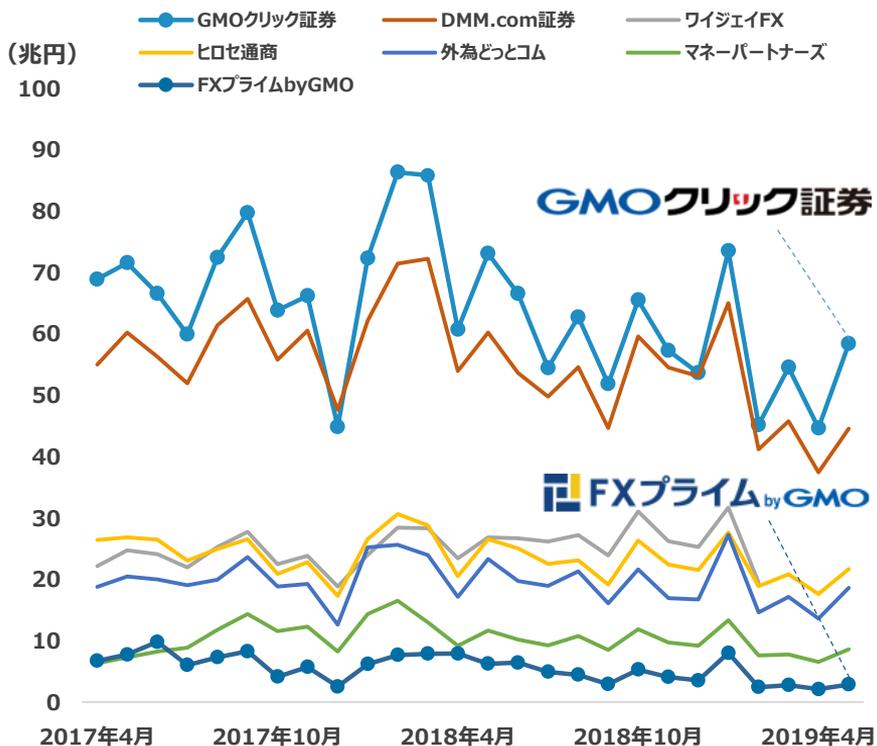
- 預り証拠金残高シェアは増加継続、トップの地位は盤石化



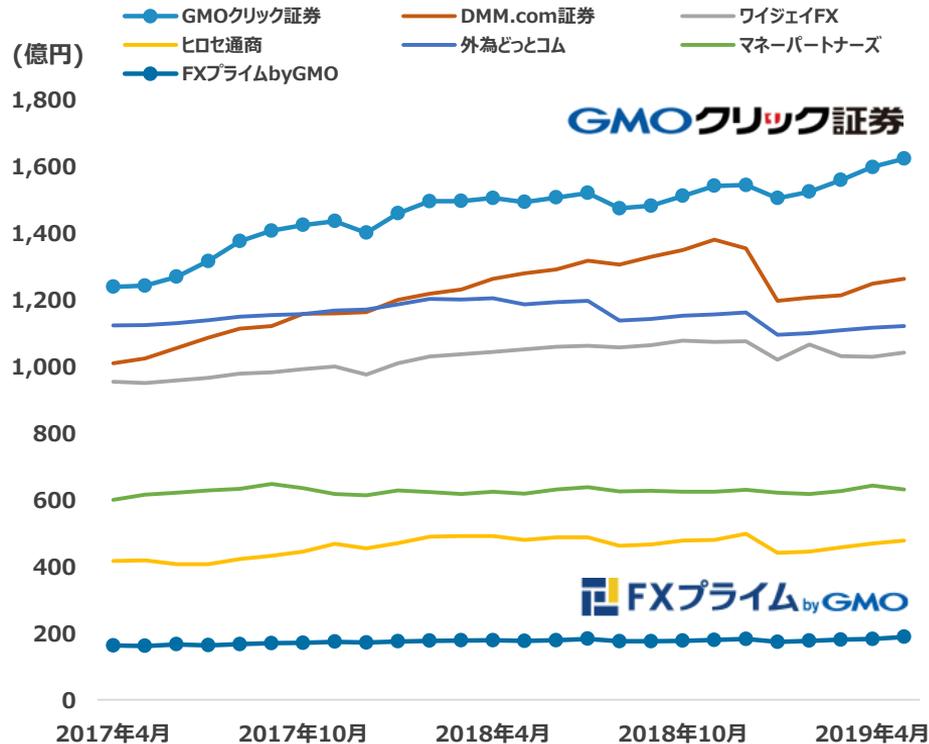
金融先物取引業協会「四半期統計データ」とGMOクリック証券の預り証拠金残高より当社作成

店頭FX | 主要KPI比較

店頭FX取引高

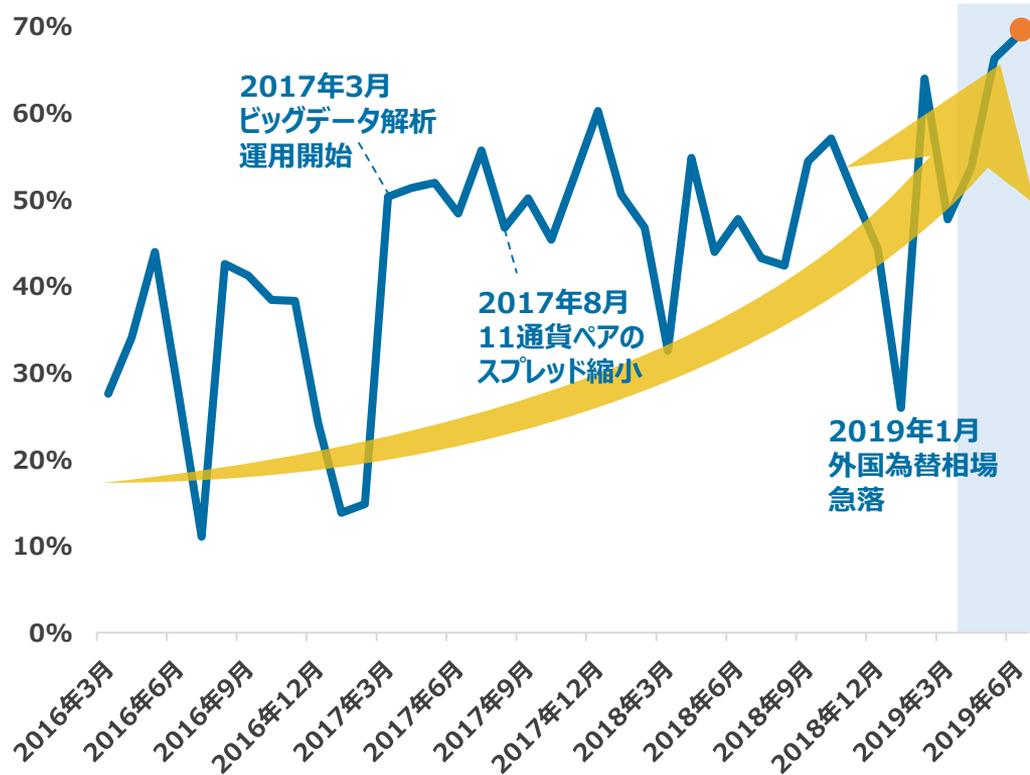


店頭FX預り証拠金残高

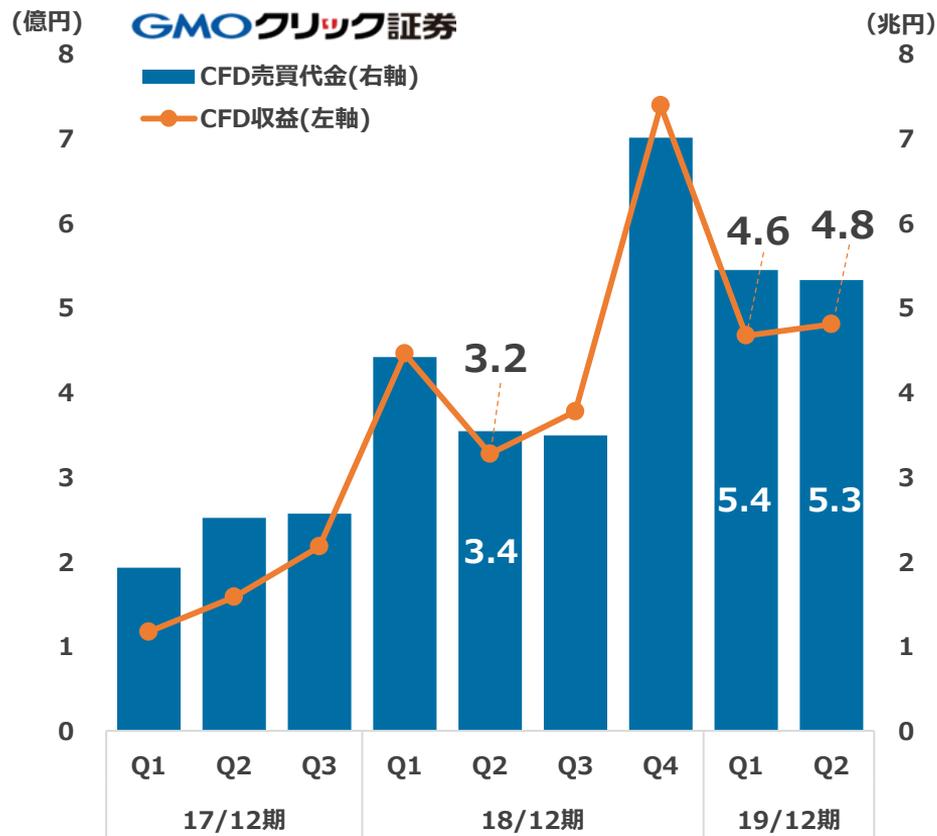


矢野経済研究所月次調査有力FX企業月間データランキング(2016年4月～2019年5月)より当社作成(取引高は百万通貨は1億円として換算)

全通貨ペア



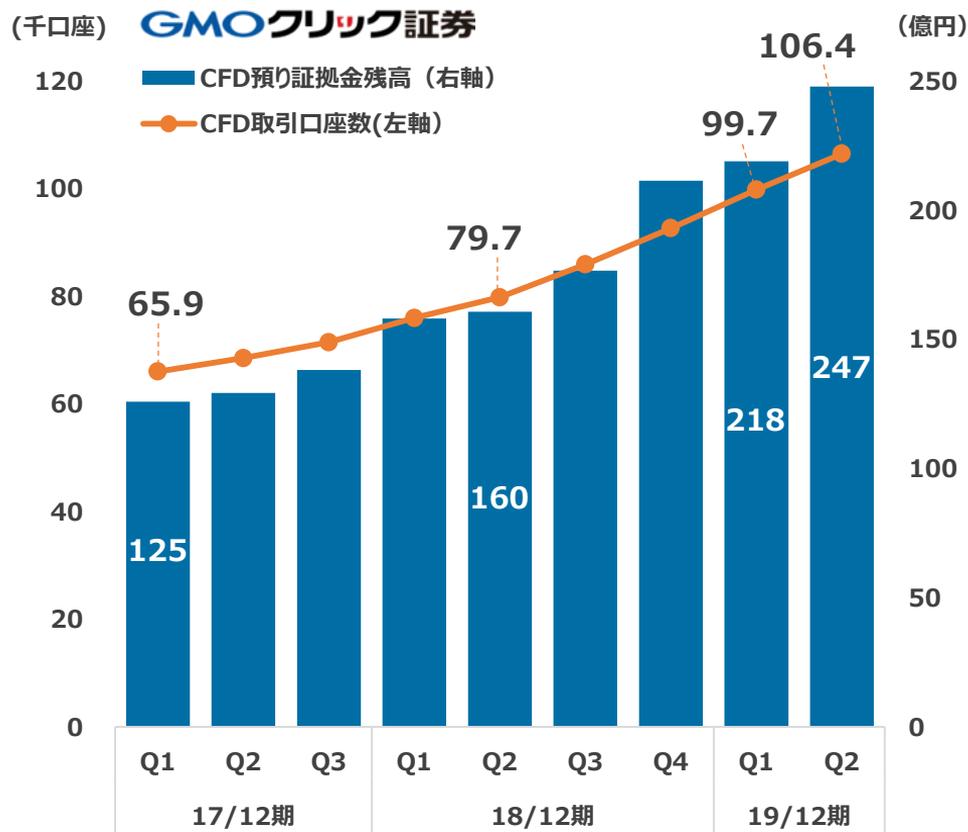
収益率は 過去最高



Q/Q
2.9%増収

売買代金は微減も、
引き続き高水準の収益を確保

GMOクリック証券の売買代金、収益



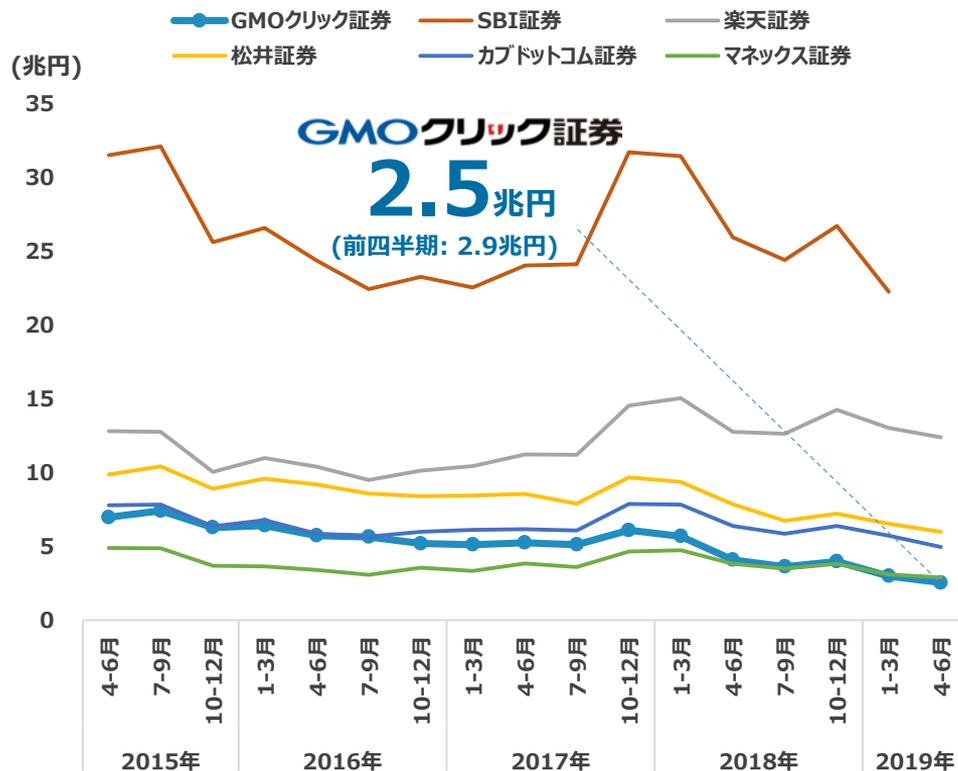
顧客基盤は 順調に拡大

預り証拠金残高
 年平均成長率40.3%

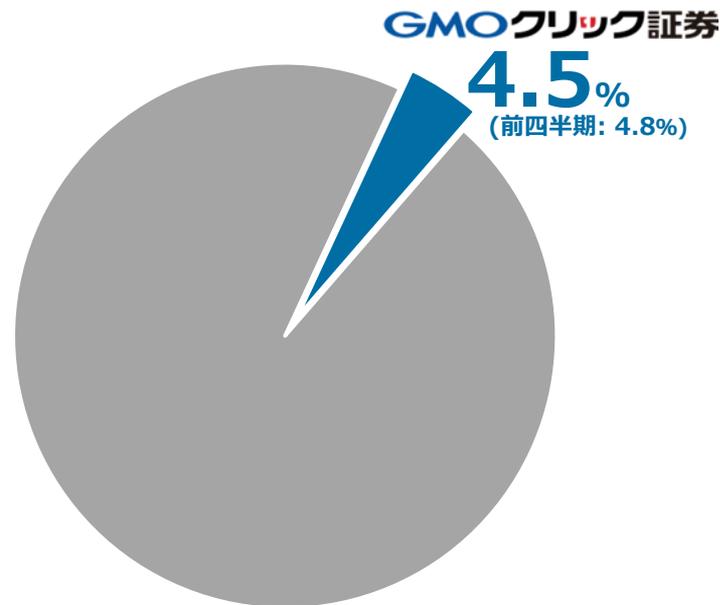
GMOクリック証券の口座数・預り証拠金残高

- 2019年4月-6月の2市場個人株式等委託売買代金は前年同期比21%減

主要ネット証券株式等売買代金推移

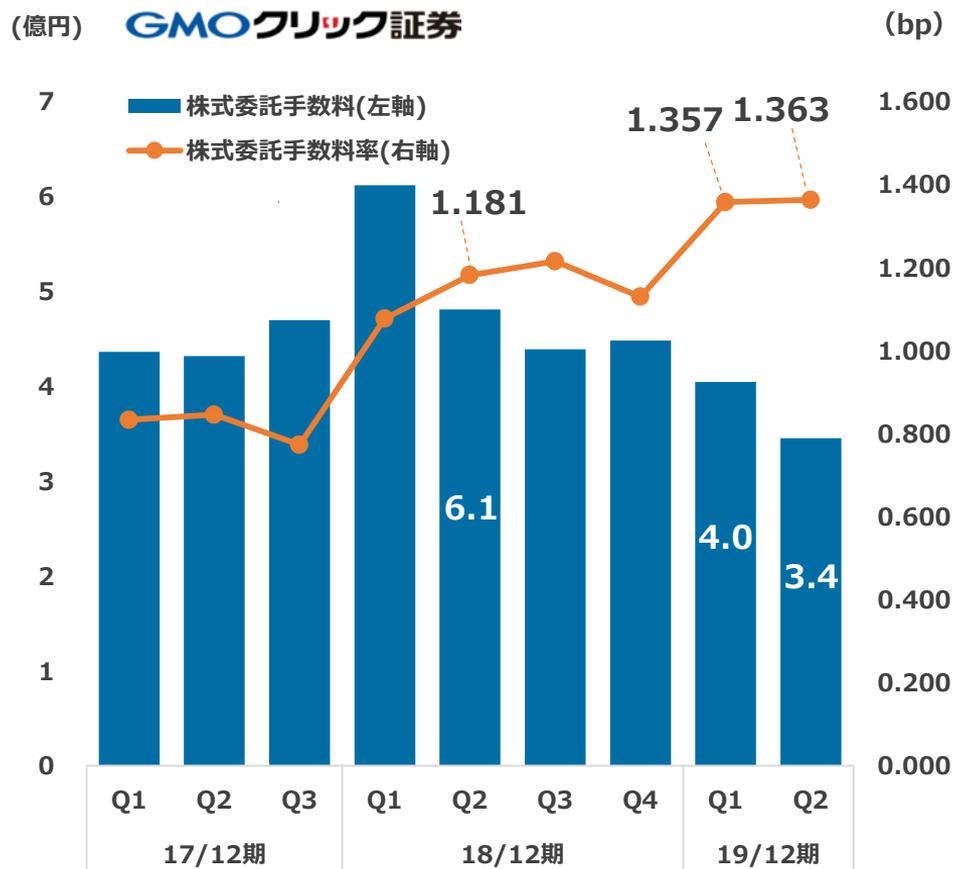


2市場に占める個人株式等委託売買代金シェア (2019年4-6月)



日本取引所グループ、各社公表資料より当社作成
SBI証券は2019年4月-6月は未公表のためグラフなし
株式売買代金シェアは、2市場の株式等個人委託売買代金(ETF・REIT含む)に占めるシェア

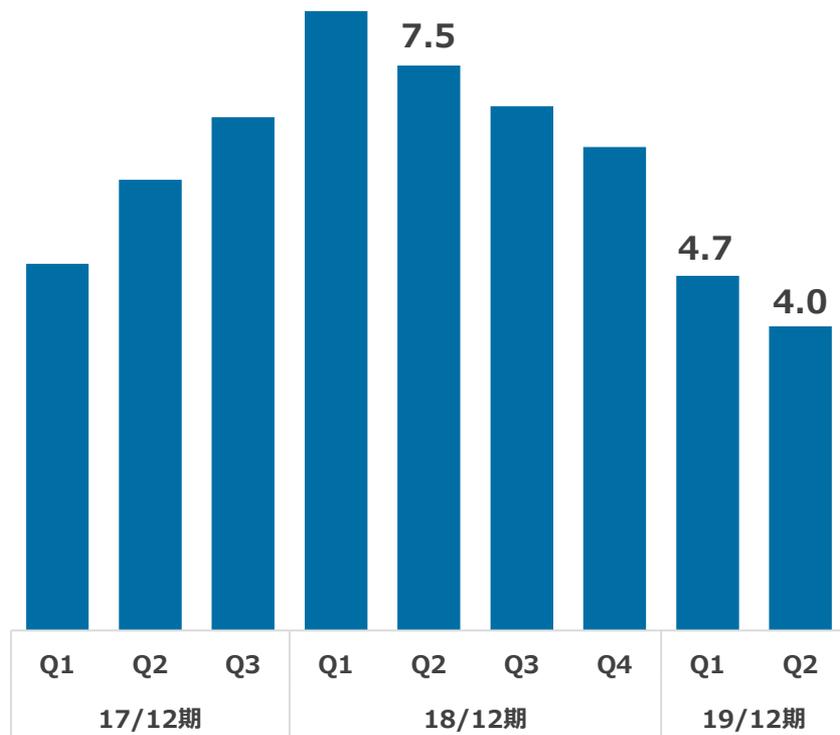
国内株式 | 株式委託手数料・委託手数料率の推移



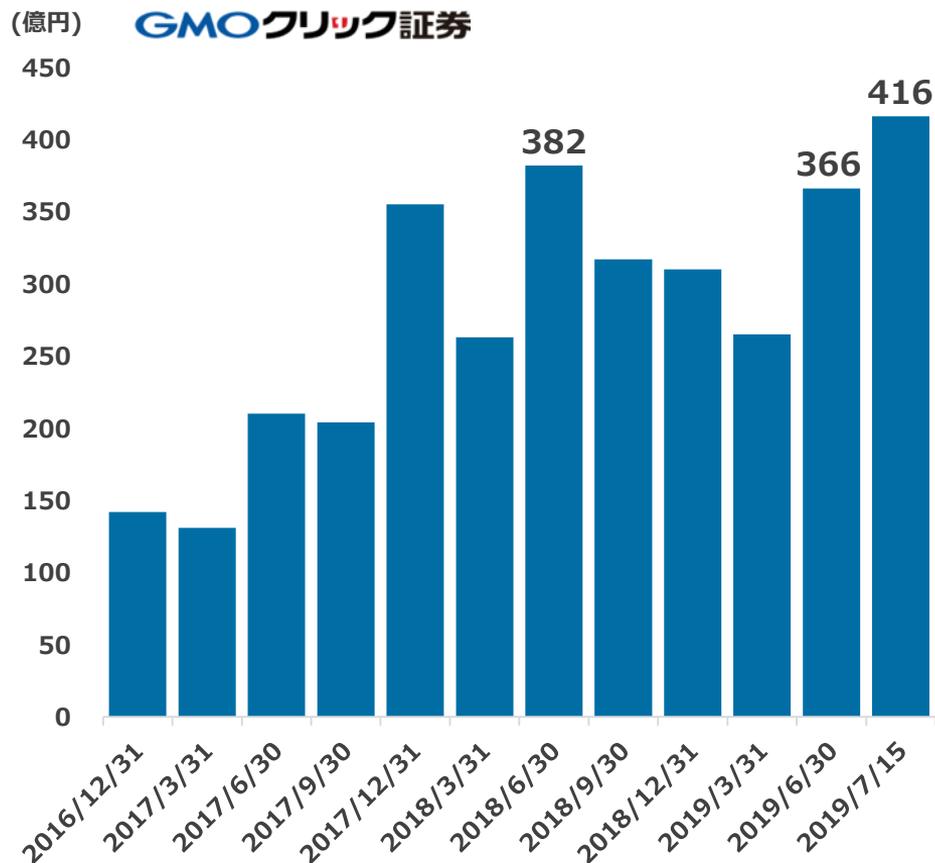
Q/Q
14.8%減収

委託手数料率は改善

(億円) **GMOクリック証券**

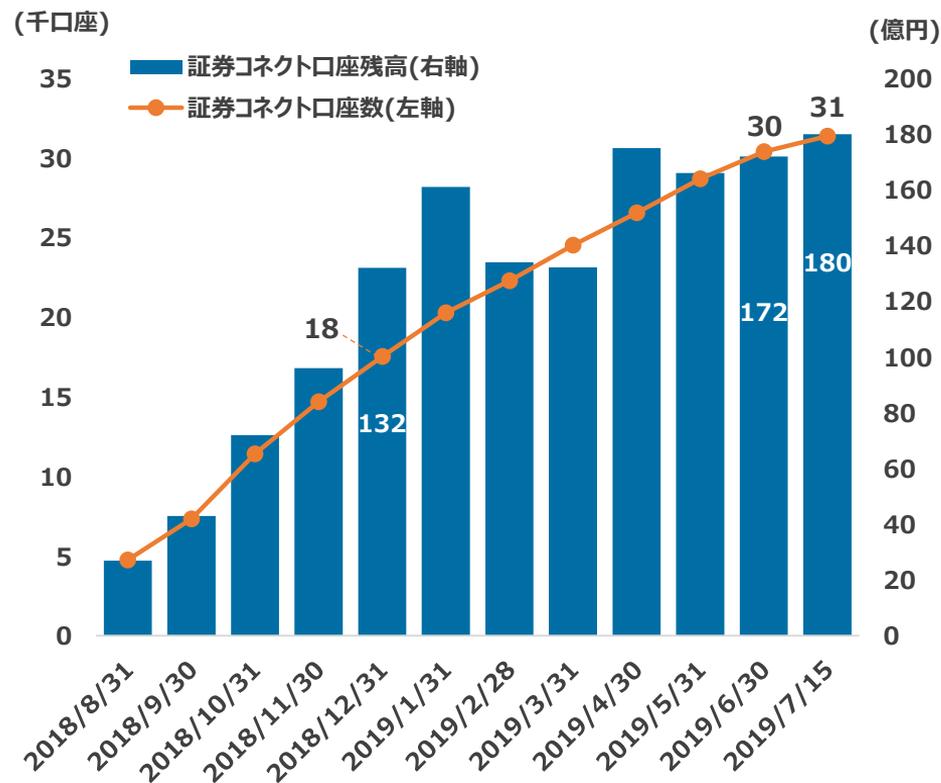


Q/Q
14.2%減
信用取引や貸株の収益減少の
影響を受け、金融収支も減少



貸株残高は
400億円を確保

GMOクリック証券 × GMO あおぞらネット銀行



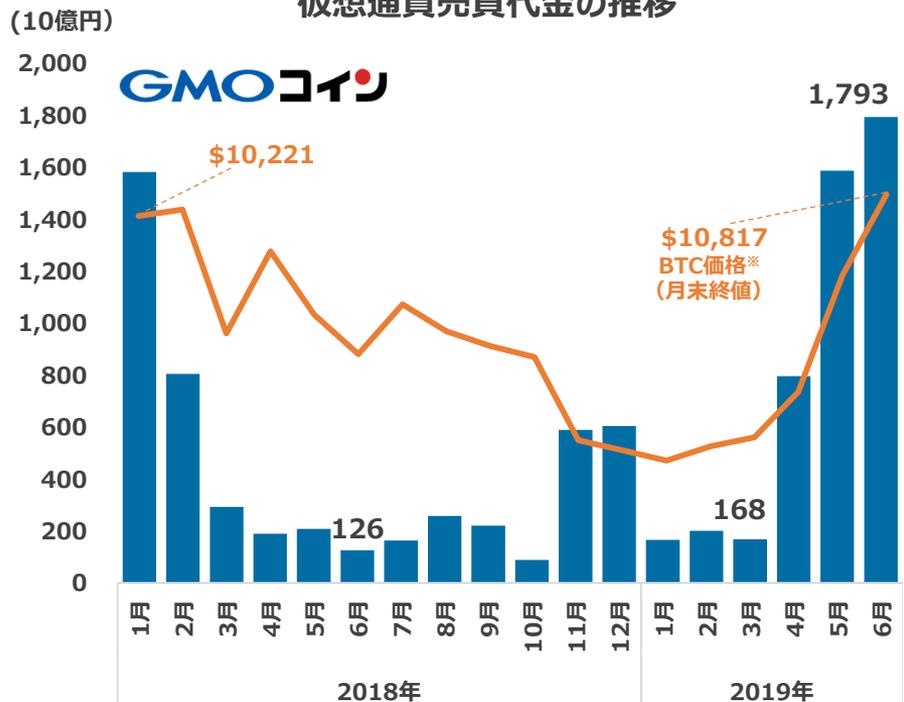
銀行・証券の口座連携サービス

口座数・残高ともに 堅調に推移

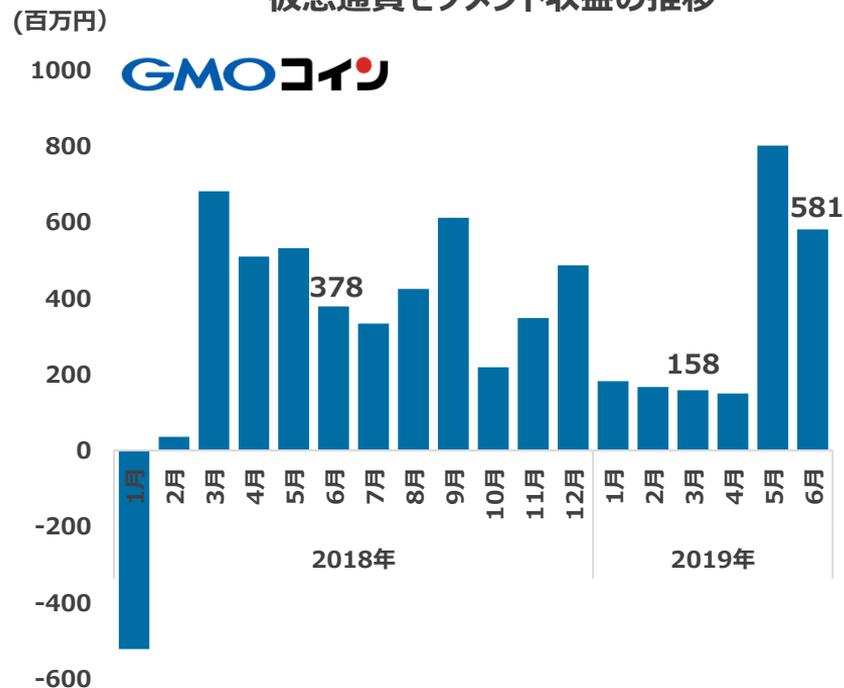
仮想通貨 | 売買代金・セグメント収益の推移

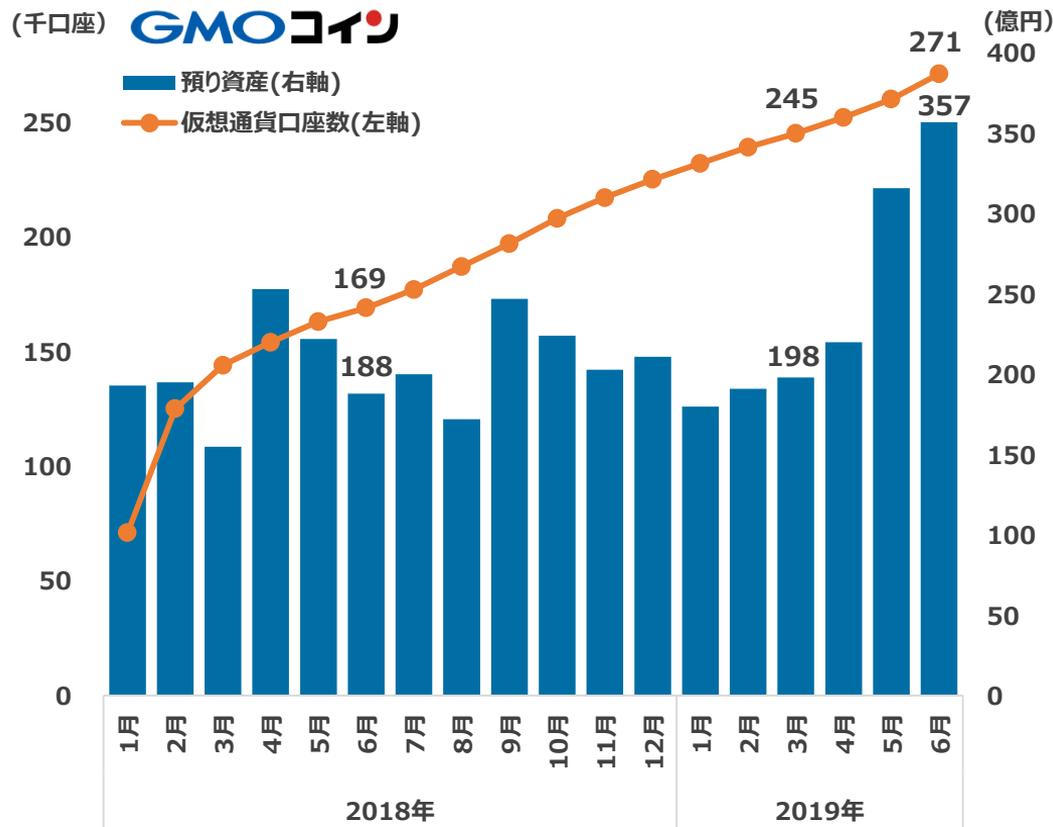
- ボラティリティが高水準で推移し、売買代金が増加
- 国内シェア獲得を狙い、スプレッド縮小戦略を展開

仮想通貨売買代金の推移



仮想通貨セグメント収益の推移





口座数・預り資産 堅調に推移

預り資産・預り仮想通貨の数量
ともに順調に増加

証券・FX事業

【FX】収益性大幅改善に向けた長期プロジェクトを開始（2021年完了見込み）

- ・ リテールFXでは、既存システムの改良が進行中
— プライスの最適化、カバー・ポジション管理の高度化を目指す
- ・ BtoBでは、プロトタイプ機を用いた実証実験が順調に進捗
— プライス予測モデルを超高速マシンへ実装することで収益性向上を図る

◇リテールFX

- ・ データサイエンティスト・アーキテクトチーム 6名
（JAXA、理化学研究所出身者等のメンバーで構成）
- ・ 機械学習、Hadoop/Sparkエンジニア 6名

◇BtoB

- ・ クオンツ、超高速マシン研究チーム 5名

証券・FX事業

【CFD】認知向上に向けた取り組み

- ・「投資のコンビニ CFD」をキャッチコピーに、積極的なプロモーションを展開中
 - Web動画をタクシー広告、SNS等に出稿

仮想通貨事業

国内シェア獲得に向けた取り組み

- ・ スプレッド縮小戦略を展開
- ・ 5月29日に取引所取引のAPIをリリース、利便性の向上を推進
- ・ システムリスク管理体制の強化に引き続き注力

レバレッジ取引倍率の4倍への引き下げ（7月31日より）

- ・ 取引影響あり、カバーロジックの改善による収益性改善を目指す

目標

連結配当性向

50% (年4回配当)

1株当たり 配当金	Q1	Q2	Q3	期末	年間
2019年 12月期	2.59円	8.03円	-	-	-
2018年 12月期	7.46円	8.98円	9.54円	6.27円	32.25円

決算概要

事業概況

 **Appendix**

営業収益（セグメント別/商品別）の四半期推移

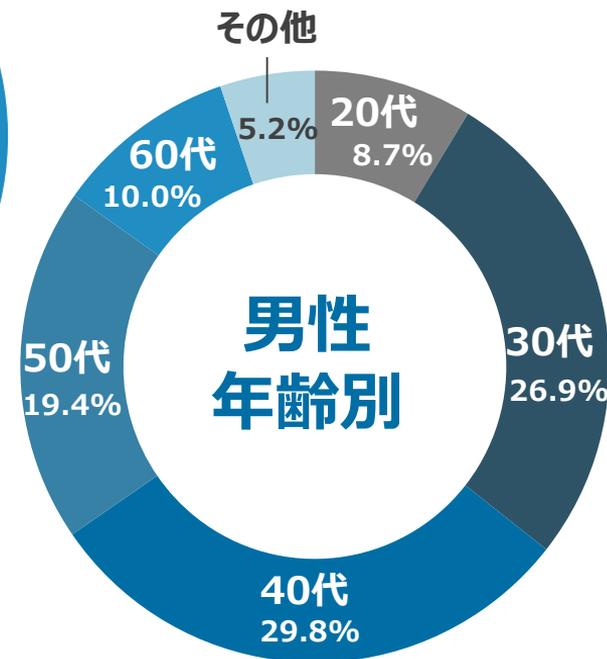
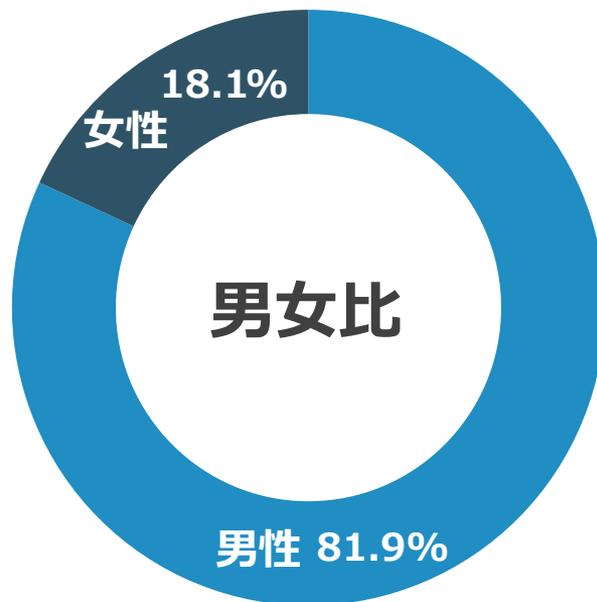
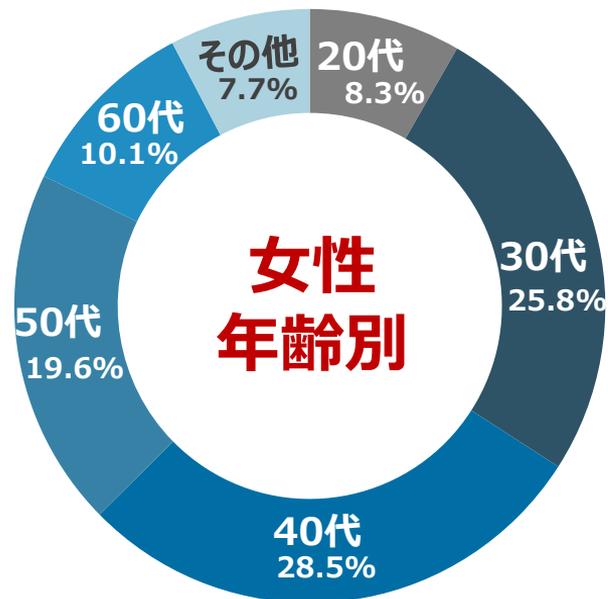
(単位：百万円)	18/12期				19/12期	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2
証券・FX事業	7,923	7,409	7,359	7,340	6,239	7,285
株式・ETF等	679	537	501	500	467	408
先物・オプション	109	59	63	94	53	57
くりっく365	194	179	188	156	143	122
通貨関連店頭デリバティブ	5,218	5,095	5,052	4,661	4,093	5,124
CFD・株BO	541	418	474	857	537	554
金融収益	1,171	1,110	1,053	1,038	910	975
その他	9	8	25	31	33	43
仮想通貨事業	192	1,420	1,369	1,053	507	1,532
仮想通貨	192	1,420	1,369	1,053	507	1,532
その他	230	177	152	156	158	146
その他	230	177	152	156	158	146
調整額	△0	0	△0	0	△0	1
調整額	△0	0	△0	0	△0	1
営業収益	8,346	9,007	8,882	8,551	6,905	8,965

株式・ETF等は、株式・maneo・投資信託の取引から得られる受入手数料を含む
CFDは、一部海外子会社の店頭FXに係る収益を含む

販売費及び一般管理費の四半期推移

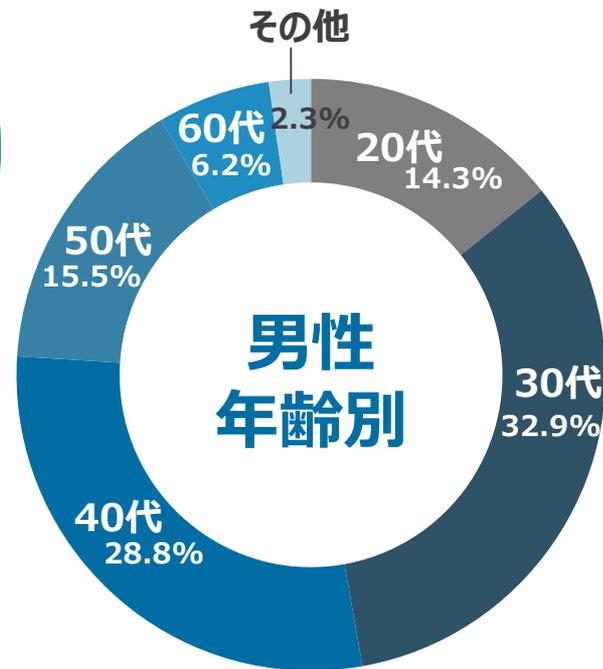
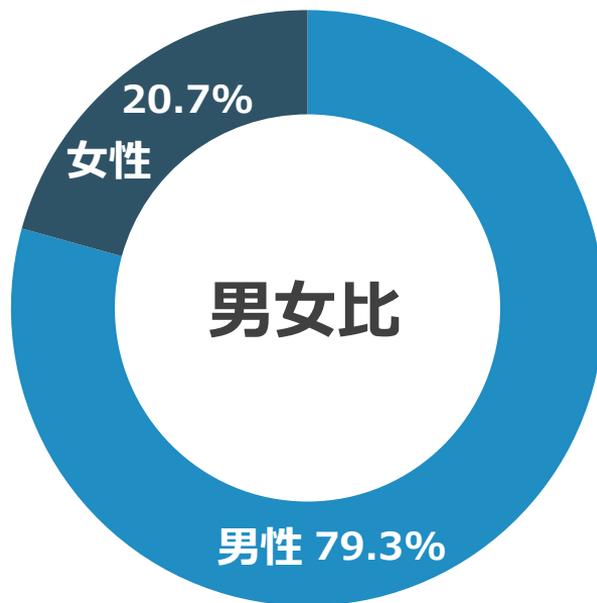
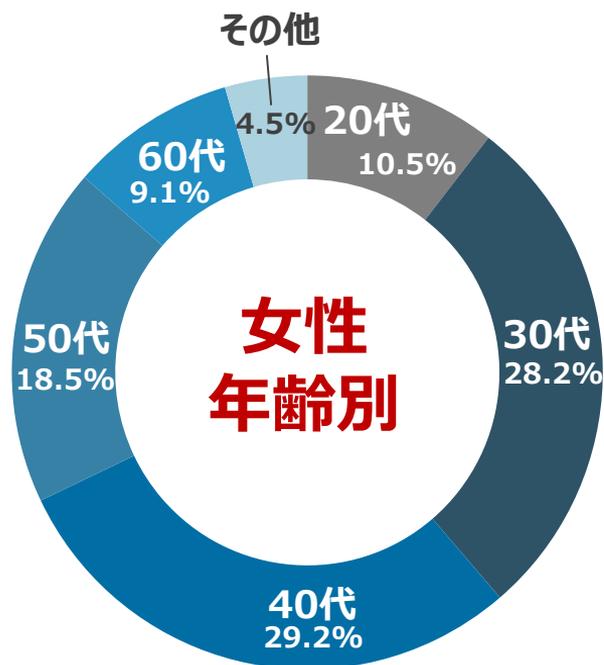
(単位：百万円)	18/12期				19/12期	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2
取引関係費	2,346	2,112	2,248	2,513	2,049	2,287
（内、広告宣伝費）	1,214	1,154	1,310	1,485	1,134	1,208
人件費	983	1,104	992	970	921	996
不動産関係費	657	703	704	723	738	691
事務費	754	731	721	755	775	938
減価償却費	212	216	232	247	226	247
租税公課	177	177	173	240	155	193
貸倒引当金繰入額	18	115	△120	△0	114	△3
のれん償却額	40	40	40	40	40	40
その他	52	43	41	47	45	71
販売費及び一般管理費	5,244	5,245	5,035	5,539	5,067	5,463

証券取引口座



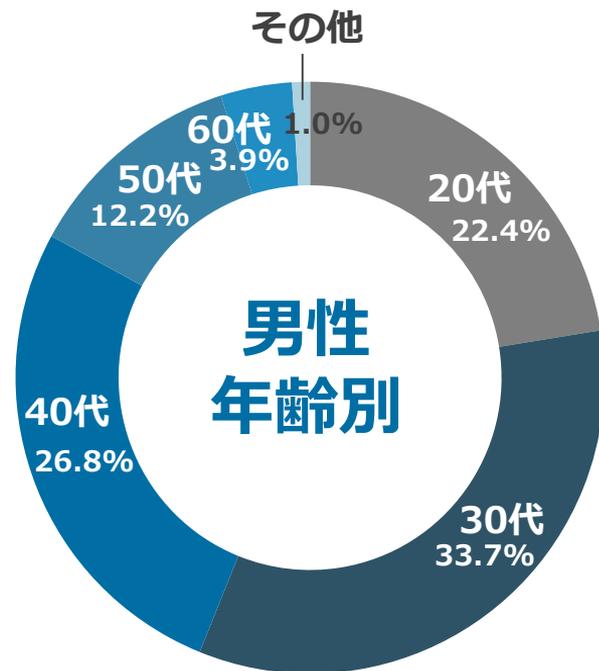
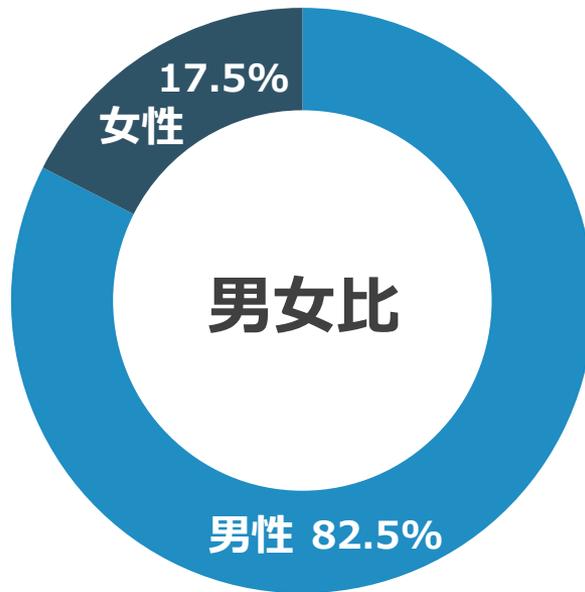
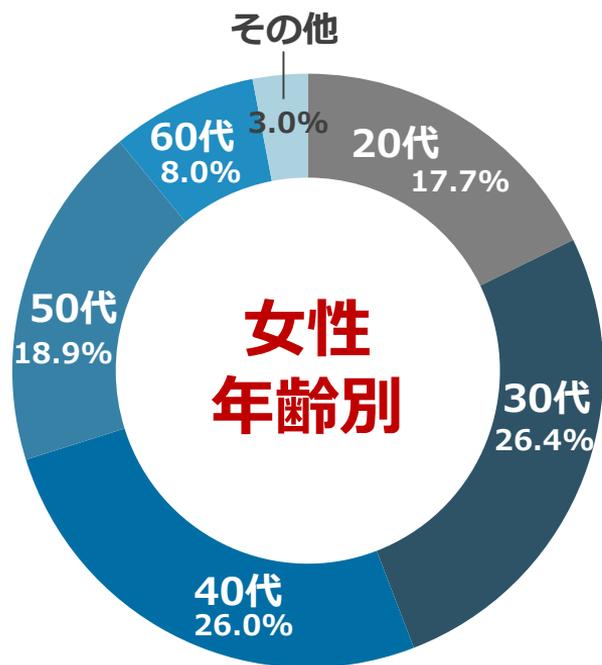
2019年6月末日現在

FX専用取引口座



2019年6月末日現在

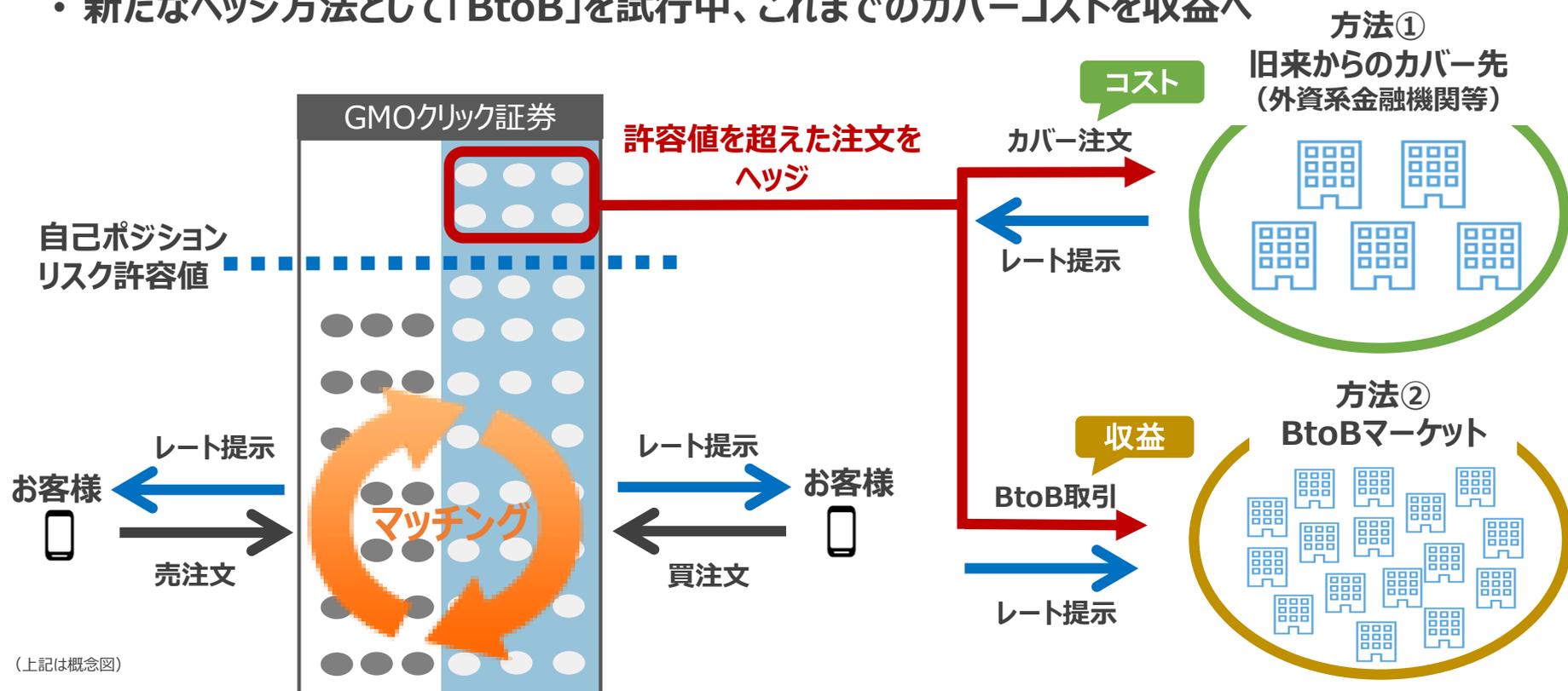
仮想通貨取引口座



2019年6月末日現在

ビジネスモデル（店頭デリバティブ取引）

- 効率的なマッチングと、ポジションの保有リスクをヘッジする徹底した管理を追求
- 新たなヘッジ方法として「BtoB」を試行中、これまでのカバーコストを収益へ

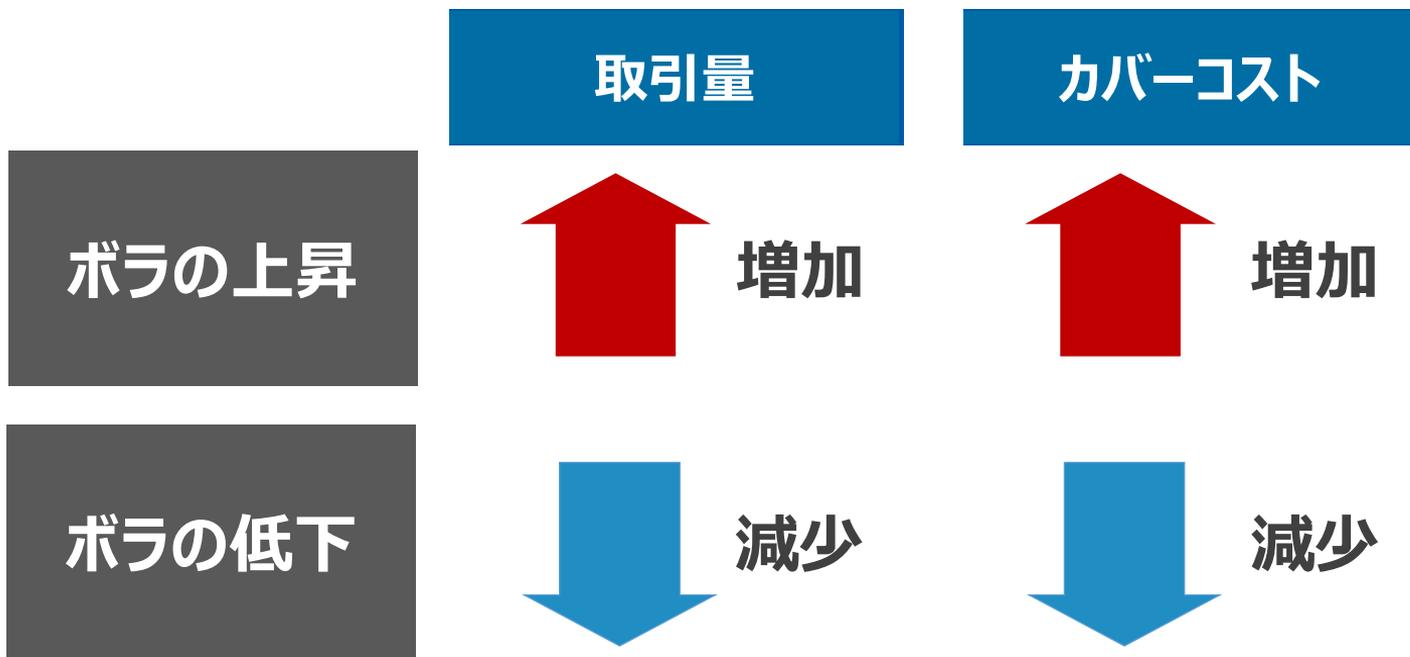


(上記は概念図)

ボラティリティと収益の関係

収益
構造

$$\text{対顧客取引} \quad \text{カバー取引}$$
$$(\text{対顧客スプレッド} \times \text{取引数量}) - (\text{カバースプレッド} \times \text{カバー数量})$$



(上記は概念図)

免責事項

本資料には、2019年7月26日現在の将来に関する前提、見通し、計画等に基づく予測が含まれています。世界経済、競合状況、為替の変動等にかかわるリスクや天変地異などの不確定要因により実際の業績が記載の予測と大きく異なる可能性があります。またマーケットシェアなどの数値について一部弊社推計値が含まれております。調査機関によって異なる可能性があります。

また本資料に掲載されている情報は、情報の提供を目的としたものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。また本資料内に記載されている業績予想などの将来の予測に関するものは、リスクや不確定要因を含みます。実際の業績は経済情勢や市場環境など、さまざまな要因により、かかる予想とは大きく異なることがあることをご承知おきください。当該情報に基づいて被ったいかなる損害に関しても、その理由の如何に関わらず一切の責任を負うものではございません。